

6 各科目シラバス

科目選択コード	612100102	科目名	農業と環境	単位数	4単位
履修年次	2年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	農業と環境(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	①栽培農業を体験しながらその基礎と考え方、また、農業を学ぶ姿勢を育成する。 ②農業の簡単な体験と概要を学び、農業の魅力を体得させる。				
選択条件	①農業系4年生大学、農業系公務員を目指す生徒。 ②将来、農業系の仕事または農業技術が必要とされる仕事に従事する予定の生徒。				
	【補足】 国公立農業系学部及び私立農業系大学、農業系公務員を目指す場合、必ず履修してください。				
授業内容	①農業高校で全ての生徒が必ず学習する農業生産に関わる基礎科目となります。 ②「野菜」、「草花」、「果樹」、「作物」、「畜産」で扱う教材を用いて、簡単な管理方法とその生態の基礎について学びます。 ③農業を取り巻く環境とその評価方法の概要を学習します。				
学習方法	①野菜・草花の播種、定植調査、観察 ②水田実習、調査、観察 ③調査データの加工、分析、発表(プロジェクト学習) ④果樹の管理				
評価の観点	知識・技能	農業と環境の分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、農業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができる。			
	思考・判断・表現	農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、農業に携わる者として適切に判断し、創意工夫しながら実習することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	農業に常に関心をもち、主体的に実習に取り組もうとするとともに、実践的な態度が身についている。(授業中の態度・提出物)			
評価方法	知識・技能	学習プリント、定期考査			
	思考・判断・表現	座学、実習中の活動、生産物、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	授業に臨む態度、実習に取り組む姿勢、提出物			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612140102(2年) 612140103(3年)	科目名	作物	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	作物(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	作物の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、作物の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。				
選択条件	①農業系の学部を目指す生徒。 ②将来、農業系の仕事、または農業技術が必要とされる仕事に従事する予定の生徒で、興味のある生徒。				
	【補足】 「作物」の授業は、実習中心の授業となります。教科書に書かれたそれぞれの作物の特性を覚えることと同時に、実習をいかに「誠実に」・「正確に」・「素早く」終わらせるか、常に考え行動してください。無駄な動きを省き、効率よく仕事を進める能力は農業分野のみならず、全ての仕事において必要とされる能力です。また、この授業では観察力を主に養います。自分が観察するイネに対し、責任を持ってデータを収集してください。				
授業内容	作物は、人間にとって主食となる植物を学習する科目です。中心教材としてイネを用います。イネの栽培期間に、週一回の観察・記録を行い、データの収集・整理・考察を通して植物の生長を科学的に検証する基礎的な知識・技術を学びます。また、イネを取り巻く文化的な環境にも目を向け、米の重要性を考えていきます。その他、露地栽培による作物を栽培し、それらの基礎的な栽培技術を身につけることができます。				
学習方法	①稲作の基礎的栽培技術を学ぶ。 ②イネの一生を観察・記録し、データの科学的な検証方法を学ぶ。 ③イネを取り巻く文化的な背景を学習し、日本人と稲作の深いつながりについて学ぶ。 ④水田裏作・転作作物としての作物の栽培技術を学ぶ。(トウモロコシ・大豆・サツマイモ等)				
評価の観点	知識・技能	作物の利用に関する関心と課題意識を高め意欲的に追求することができる。			
	思考・判断・表現	作物の利用の諸課題を現在の視点から考察する事ができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	作物の利用に関する関心と課題意識を高め意欲的に追求することができる。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612150102(2年) 612150103(3年)	科目名	野菜			単位数	2単位	
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源			履修条件	選択履修	
使用教材	教科書	野菜(実教出版)						
	副教材	なし						
到達目標	「野菜」の授業では、果実を利用する野菜(トマト・キュウリ等)と葉(レタス・ホウレンソウ等)・根(ダイコン・ニンジン等)を利用する野菜について、露地・施設栽培での生産技術の基礎を学習し、野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得させる。							
選択条件	①農業系の学部等を目指す場合には必ず履修してください。 ②将来、農業系の仕事、または農業技術が必要とされる仕事(医療系・保育系)に従事する予定の人で、興味のある人は履修してください。							
対応進路	4大(文)	4大(理)	短期大学	医・看護	一般専	一般就職	公務員	
		◎	○				○	
	【補足】 農学部系の大学へ進学したい人は、推薦入試における農業科目の単位となります。							
授業内容	①露地野菜の基礎的栽培技術を学ぶ。(播種・定植・収穫) (スイートコーン・エダマメ・キャベツ・ハクサイ・ダイコン・ブロッコリー等) ②施設野菜の基礎的栽培技術を学ぶ。(トマト・ピーマン・ナス・キュウリ・イチゴ等) ③福岡県育成品種「あまおう」の育苗から収穫・販売技術を学ぶ。 ④「あまおう」の育成経緯と、福岡県の取り組みについて学ぶ。							
学習方法	「野菜」の授業は、実習中心の授業となります。教科書に書かれたそれぞれの野菜の特性を覚えることと同時に、実習をいかに「誠実に」・「正確に」・「素早く」終わらせるか、常に考え行動してください。無駄な動きを省き、効率よく仕事を進める能力は農業分野のみならず、全ての仕事において必要とされる能力です。 ①実習で扱う植物について、事前に教科書をよく読み、予習をしてください。 ②実習中心の授業です。普段から体調をよく整えてください。							
評価の観点	知識・技能	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、野菜栽培、販売に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。						
	思考・判断・表現	野菜に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、野菜栽培、販売に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。						
	主体的に学習に取り組む態度	野菜の種類、栽培管理について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。						
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査						
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査						
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度						

6 各科目シラバス

科目選択コード	612160102(2年) 612160103(3年)	科目名	果樹	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	果樹(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。				
選択条件	①農業系の学部を目指す生徒。 ②将来、農業系の仕事、または農業技術が必要とされる場合がある仕事に従事する予定の生徒で、興味のある生徒。				
	【補足】 「果樹」の授業は、講義中心の授業となりますが、その時々に応じた管理実習が最も大切な授業と位置付けています。将来、農業系の仕事、または農業技術が必要とされる場合がある仕事(医療系・保育系)に従事する予定の人で、興味のある人は履修してください。				
授業内容	果物の中でも「木になる」植物を学習する授業です。「果樹」の授業では落葉果樹としてモモ、常緑果樹として柑橘類(ミカン類)を中心に学習し、果樹園芸における基礎的な知識・技術を身につけます。 ①露地を利用した果樹生産と、果樹園管理方法の基礎を身につけることができます。 ②「モモ」「ミカン類」を中心教材として学習します。 ③実習を通して、仕事の段取り力を身につけることができます。				
学習方法	①落葉果樹、常緑果樹の基礎的栽培技術を学ぶ。 (ウメ・モモ・温州ミカン・キウイフルーツ・ブルーベリー等) ②果樹園の基礎的管理技術を学ぶ。				
評価の観点	知識・技能	果樹栽培について、基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、果樹の意義や役割を理解することができる。			
	思考・判断・表現	果樹栽培について、課題の解決を目指して思考を深め、実習を行う。			
	主体的に学習に取り組む態度	果樹に常に関心をもち、主体的に実習に取り組もうとするとともに、実践的な態度が身に付けている。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612170102(2年) 612170103(3年)	科目名	草花	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	草花(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	①草花の生産と経営に必要な知識と技術を習得させる。 ②草花の特性や生産に適した環境を理解させる。 ③品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。				
選択条件	①苗木、鉢物生産を主体とした花卉栽培技術の基礎を学習したい生徒。 ②実習を通して、仕事の段取り力を身につけたい生徒。 ③自分たちで生産した花苗を周辺地域に販売し、地域の環境美化に貢献したい生徒。				
	【補足】 農業系の学部や公務員を目指す場合には、農業の補助的な学習内容となります。 将来、園芸療法や花壇・農場の手入れなど、農業技術が必要とされる仕事(医療系・保育系)に従事する予定の人で、興味がある人は履修してください。				
授業内容	培養土の準備から、繁殖、栽培、販売・流通までの基礎を学習します。 (腐葉土作成・培養土準備・種子繁殖・栄養繁殖・コンテナガーデン作成・花苗販売等) 施設栽培の基礎的技術を学ぶ。(サルビア・ペチュニア・パンジー・ノースポール等) ①草花に関する基礎知識を授業で学び習得する。 ②調査・観察記録・実習で学び基礎技術を習得する。				
学習方法	「草花」の授業は、実習中心の授業となります。 ①実習で扱う植物について、事前に教科書をよく読み、予習をしてください。 ②草花に関する基礎知識を授業で学び、調査・観察記録・実習で基礎技術を習得する。 ③各実習を実施して、記録ノートにまとめる。 ④周辺地域を飾る草花を生産します。誇りと責任を持って実習に取り組みましょう。				
評価の観点	知識・技能	草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
	思考・判断・表現	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養っている。			
	主体的に学習に取り組む態度	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、実験観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	課題、実験観察、授業に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612210102(2年) 612210103(3年)	科目名	農業経営	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	農業経営(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	<p>①農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。</p> <p>②農業経営のグローバル化や法人化、六次産業化について自らの課題として捉え、発展的な経営方法を学習する。</p>				
選択条件	<p>①農業系の学部を目指す生徒。</p> <p>②将来、農業自営の仕事に従事する予定の生徒。</p>				
	<p>【補足】</p> <p>①農学部系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。</p> <p>②商業科の科目ではありません。商業系の進路には対応していませんので注意してください。</p>				
授業内容	<p>①農業経営の設計と管理に必要な基礎的知識と技術の習得、コスト管理とマーケティングの必要性を理解し、経営管理の改善を図る能力と態度を学びます。</p> <p>②農業の動向と農業経営、農業のマネジメント、農業のマーケティング等について学習します。</p>				
学習方法	<p>①農業を取り巻く幅広い分野から経営に関する事柄について学びます。また教科書を中心として講義を行います。新聞・テレビ等のメディアも活用します。</p> <p>②専門用語が多いため、教科書は事前に読んでください。自分で調べる習慣をつけましょう。</p> <p>③新聞・テレビ等のメディアを積極的に活用し、常に問題意識を持ち、幅広い知識を身につけてください。</p>				
評価の観点	知識・技能	農業経営に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、作物の育成に関する諸活動を合理的に計画しその技術を適切に活用することができる。			
	思考・判断・表現	農業経営の諸課題を現在の視点から考察することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	農業経営に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求することができる。			
評価方法	知識・技能	定期考査・授業プリント			
	思考・判断・表現	授業中の活動・発表・レポート			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度・提出物			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612230102(2年) 612230103(3年)	科目名	植物バイオテクノロジー	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	植物バイオテクノロジー(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	【補足】 農学部への推薦入学を目指す場合、履修をおすすめします。将来、農業系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。				
選択条件	①農学部への推薦入学を目指す場合、履修をおすすめします。 ②バイオテクノロジーに興味関心があり学習したい生徒。 ③生物の分野を深く学習しようとする生徒。				
	【補足】 農学部系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。				
授業内容	①実験実習を通して、生物工学関係の技術について学びます。 ②各自課題を設定し、継続的に学習することにより、植物への理解が深まります。				
学習方法	①植物組織の培養など通して、生物学・栽培の技術について学びます。 ②生き物から学ぶ楽しさやすばらしさを体験しましょう。 ③常に課題意識を持ち、それを解決するよう学習を進めていきましょう。 ④観察や記録の重要性を認識しましょう。				
評価の観点	知識・技能	各実験について、基礎的・基本的な知識を身につけ、バイオテクノロジー技術を理解することができる。			
	思考・判断・表現	実験の課題を目指して思考を深め、実験を行うために適切に判断し、創意工夫しながら実験ができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	バイオテクノロジーに関心を持ち、主体的に実験に取り組もうとするとともに、実践的な態度が身についている。			
評価方法	知識・技能	定期考査・レポート			
	思考・判断・表現	授業中の活動・研究発表・培養物			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度・提出物			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612240102(2年) 612240103(3年)	科目名	食品製造	単位数	4単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	食品製造(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	<p>①食品製造に必要な知識と技術、食品の安全性など食品製造について体系的・系統的に理解し、実習を通して技術を身につけさせる。</p> <p>②食品製造に関する課題を発見し、創造的な解決力を養う。</p>				
選択条件	<p>①栄養・食品・調理等の分野への就職や進学を希望するものは受講が望ましいです。</p> <p>②食品分野の学習に興味関心のある人は選択してください。</p>				
	<p>【補足】 農学部系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。</p>				
授業内容	<p>①加工品の製造を通して、食に関する基礎的な知識・安全性について学びます。</p> <p>②体験的・継続的な学習により、食品に対する考え方や製造技術が身につきます。</p>				
学習方法	<p>①食品の加工について基本的な知識・技術について学びます。</p> <p>②食品加工から学ぶ楽しさを体験できます。</p> <p>③日頃から「食」に目を向ける習慣をつけます。</p> <p>④常に課題意識を持ち、それを解決するよう学習を進めていきます。</p>				
評価の観点	知識・技能	食品製造の分野に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、農業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができる。			
	思考・判断・表現	製造実習の各工程において、製造者として適切に判断し、創意工夫しながら製造することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	製造実習に関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに実践的な態度が身についている。			
評価方法	知識・技能	定期考査・授業プリント・小テスト			
	思考・判断・表現	定期考査・授業中の活動・小テスト・授業プリント・製造作品			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度・実習に取り組む姿勢			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612250102(2年) 612250103(3年)	科目名	食品化学	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	食品化学(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	食品化学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。食品の成分や栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
選択条件	①食品・栄養・調理関係に進路を求める人は受講することが望ましいです。 ②これから食品の分野を学習しようとする人は選択してください。				
	【補足】農学部系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。必要な単位数は大学や学部によって異なりますので、自分でよく調べてください。				
授業内容	食品の成分と栄養的価値について学習する科目です。 ○食品を科学的にとらえる姿勢を養います。 ○基本的な「化学」の内容も含みます。				
学習方法	○食品化学について学びます。 ○日頃から「食」について科学的に目を向ける習慣をつけましょう。 ○常に課題意識を持ち、それを解決するよう学習を進めていきましょう。				
評価の観点	知識・技能	食品化学の役割に関する基礎的な知識を身に付け、身近な食品例から、食品製造と食品化学の関係について理解している。			
	思考・判断・表現	食品の諸課題を現在の視点から考察することが出来る。			
	主体的に学習に取り組む態度	食品化学に関する関心と課題意識を高め意欲的に追求することができる。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612260102(2年) 612260103(3年)	科目名	食品微生物	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	食品微生物（実教出版）			
	副教材	なし			
到達目標	食品に関連する微生物の利用と培養に必要な知識と技術を習得させ、微生物の特性を理解させるとともに、食品関連の各分野で微生物を利用する能力と態度を育てる。				
選択条件	①農業や食品の分野を学習しようとする人は選択してください。 ②食品・栄養・調理関係に進路を求める人は受講することをおすすめします。				
	【補足】 農学部へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。 必要な単位数は大学や学部によって異なりますので、よく調べてください。				
授業内容	食品に関する微生物の利用と制御及びバイオテクノロジーについて学習する科目です。 ○微生物の培養について学び、基本的な無菌操作の技術・知識を修得します。 ○体験的、継続的な学習により、農業の見方や考え方が分かるようになります。 ○これから農業の分野を学習しようとする人は選択してください。 ○食品・栄養・調理関係の進路を考えている人も、衛生的に必要な学習ができます。				
学習方法	○微生物などの培養を通して、無菌操作の技術について学びます。 ○生物から学ぶ楽しさや素晴らしさを体験しましょう。 ○日頃から自然環境の変化に目を向ける習慣をつけましょう。 ○常に課題意識を持ち、それを解決するように学習をしましょう。 ○観察や記録の重要性を認識しましょう。				
評価の観点	知識・技能	微生物の分野に関する基礎的・基本的な知識・技術を身につけ適切に活用出来る。			
	思考・判断・表現	微生物の利用の諸課題を現在の視点から考察する事が出来る。			
	主体的に学習に取り組む態度	微生物の利用に関する関心と課題意識を高め意欲的に追求することができる。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612380102(2年) 612380103(3年)	科目名	生物活用	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	生物活用(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解させるとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。				
選択条件	①農業系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。 ②医療福祉系・保育系の進路を考えている人は、生物の活用方法の基礎を学び、将来に生かすことができます。				
	【補足】 園芸療法を中心に考え、常に誰かの補助・指導をしながら農業を楽しませる人材育成を目指して学習します。その中で基本的な野菜・花の栽培方法や、その他農産物の加工方法について学習します。農業系の学部や公務員を目指す場合には、農業の補助的な学習内容となります。将来、園芸療法や花壇・農場の手入れなど、農業技術が必要とされる仕事(医療系・保育系)に従事する予定の人で、興味がある人は履修してください。				
授業内容	野菜や草花の栽培を通して、豊かで潤いのある生活実現の方法を学習します。 ①園芸の活用と効果(園芸療法について) ②野菜・草花の栽培と活用 ③農産物の加工について ④動物の活用(講義のみ)				
学習方法	この授業では農業技術の習得も大切ですが、それ以上に社会生活をどのようにすれば充実させることができるのかを考えてください。 ①新聞等で社会問題になっていることをよく読み、問題意識を持ちましょう。 ②実習中心の授業です。ただ作業をするのではなく、常に効率を考えて行動してください。 ③実習は自分のためにやるのではなく、人を幸せにするために勉強していることを常に意識してください。				
評価の観点	知識・技能	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する基礎的な知識を身に付け、生物活用の意義や役割と生活の質の向上の重要性を理解している。			
	思考・判断・表現	生物活用に関する課題の解決と生物を活用することによる生活の質の向上を目指して思考を深め、基礎的な知識や技術を基に、課題を合理的に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。			
	主体的に学習に取り組む態度	生物活用について興味・関心を持ち、生物を活用する活動の現状や今日的な課題の改善と生活の質の向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612390102(2年) 612390103(3年)	科目名	地域資源活用	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	地域資源活用(実教出版)			
	副教材	なし			
到達目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
選択条件	農学部への推薦入学、農業系公務員を目指す場合、履修をおすすめします。 ①農業の分野を学習しようとする生徒。 ②農業関係及び農業関連産業に進路を求める人は受講することをおすすめします。				
	【補足】 農業系の大学へ進学したい人は、推薦入学における農業科目の単位となります。必要な単位数は大学や学部、および入試年度によって異なりますので、自分でよく調べてください。				
授業内容	農林業や農山村の特色や地域資源の有用性を理解し、それを活用した地域振興を学習する科目です。 ○地域資源の活用について学習を深めます。 ○体験的、継続的な学習により農業の考え方が分かります。 ○地域と連携した進路を考えている人はマーケティングとブランドづくりやサービスなども学習します。				
学習方法	○作物や園芸作物の管理などを通して、栽培の技術について学びます。 ○地域資源の魅力と価値を知り、学ぶ楽しさやすばらしさを体験しましょう。 ○日頃から自然や栽培作物の変化に目を向ける習慣をつけましょう。 ○地域資源を活用する課題意識を持ち、それを解決するよう学習を進めていきましょう。 ○観察や記録の重要性を認識しましょう。				
評価の観点	知識・技能	地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。			
	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、現在の視点から合理的かつ創造的に考察することが出来る。			
	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、地域貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
評価方法	知識・技能	実習・観察、小テスト、定期考査			
	思考・判断・表現	授業・実習中の活動、観察、定期考査			
	主体的に学習に取り組む態度	実習・観察、授業・実習に臨む態度、授業中の態度			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612400103	科目名	パン職人の技	単位数	2単位
履修年次	3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	なし			
	副教材	荻原和也のパン作りの教科書(日東書院)			
到達目標	①食品衛生法を守る意識を確立するとともにパンの製造についての知識と技術・安全性を体系的・系統的に理解させる。 ②生地作りができるとともに様々なパンの製造技術を身に付ける。				
選択条件	①食品・栄養・調理関係の就職や進学を考えている生徒。 ②パンの製造に興味・関心がある生徒。				
	【補足】 農学部の推薦入試を目指す場合、農業科目とは見なされない場合があります。注意が必要です。必要な単位数は大学や学部及び入試年度によって異なりますので、自分でよく調べてください。				
授業内容	①パンの製造を通して、食に関する基礎的な知識・安全性を学びます。 ②実習を通して、パン製造の知識と技術について学びます。 ③体験的・継続的な学習により、パン製造への理解が深まります。				
学習方法	①パンの製造を通して、食品・安全性について学びます。 ②パン作りの中で食品を学ぶ楽しさや素晴らしさを体験できます。 ③常に課題意識を持ち、それを解決するよう学習を進めていきます。				
評価の観点	知識・技能	パンの製造に関する基礎的・基本的な知識及び安全性を身につけ、製造技術を理解する。また、その技術を適切に活用することができる。			
	思考・判断・表現	パン製造の各工程において、製造者として適切に判断し創意工夫しながら製造することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	製造実習に関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに実践的な態度が身についている。			
評価方法	知識・技能	定期考査・授業プリント・小テスト			
	思考・判断・表現	定期考査・授業中の活動・小テスト・授業プリント・製造作品			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度・実習に取り組む姿勢			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612410102(2年) 612410103(3年)	科目名	ペット動物	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	なし			
	副教材	新版 犬のしつけ学(基礎と応用) (エデュワードプレス)			
到達目標	①この授業は、犬や猫の体の基本的なしくみ、世界で飼われている主要品種、犬たちや猫たちの特別な生態や行動、私たちが彼らと暮らすときの知恵、犬や猫がかかりやすい主な病気などについて理解します。				
選択条件	①犬や猫の種類や歴史、身体的・性格的な特徴、問題行動の対処方法などを理解したい生徒。 ②動物の世話が好きであると同時に、将来、動物関連産業(ペットリマー、犬の訓練士、ペットショップなど)への進路を考えている生徒。				
	【補足】 農学部のおすすめ入試を希望しようとする場合、大学が認める単位とならない場合があるので注意が必要です。				
授業内容	①犬とは(犬の起源、骨格と動き、頭脳と心、犬種、行動) ②猫とは(猫の起源、骨格と動き、頭脳と心、猫の種類、行動)				
学習方法	①動物に触れることが大切です。実習も取り入れますので、積極的に取り組んでください。 ②日頃疑問に思っていることも、授業の中で積極的に質問してください。				
評価の観点	知識・技能	ペットの育成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ペットの育成に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができる。			
	思考・判断・表現	ペットに関する諸課題を現在の視点から考察することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	ペットにかかわる関心と課題意識を高め意欲的に迫及することができる。			
評価方法	知識・技能	定期考査・小テスト			
	思考・判断・表現	授業中の活動・発表・レポート			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度・提出物			

6 各科目シラバス

科目選択コード	612420102(2年) 612420103(3年)	科目名	有機農業生活	単位数	2単位
履修年次	2・3年次	設置系列	生物資源	履修条件	選択履修
使用教材	教科書	武蔵野の落ち葉堆肥農法に学ぶ 土と肥やしと微生物(農山漁村文化協会)			
	副教材	なし			
到達目標	<p>①農業を通して環境問題の重要性を学ぶとともに有機農業の基本を学習します。</p> <p>②野菜の栽培を通して農業の基本的な知識・技術を体験的に学習します。</p> <p>③社会生活や家庭生活で発生する生ゴミ等の利用を考え、自然に還元することの大切さを学習します。</p>				
選択条件	<p>①自然農法に興味関心のある生徒。</p> <p>②将来、農業系の仕事または農業技術が必要とされる仕事(医療系・保育系)を考えている生徒で興味のある生徒。</p>				
	<p>【補足】 農学部、農業系公務員を目指す場合、農業の補助的な学習内容となります。</p>				
授業内容	<p>①現代農業の発展経過について</p> <p>②有機農業生活が求められている現代社会の実態について</p> <p>③有機農業とは何か</p> <p>④夏野菜の栽培(通常栽培と有機栽培)</p> <p>⑤冬野菜の栽培(通常栽培と有機栽培)</p> <p>⑥堆肥づくり</p>				
学習方法	<p>①実習を通して有機農業を体験します。有機農業を求める声が多い中、なぜ日本の農業が農薬や化学肥料を使用しているのか実感し考えてみましょう。</p> <p>②畑にまめに足を運び、雑草や害虫、天敵などいろいろな生き物をよく観察することが有機農業を行う上でとても大切なこととなります。</p> <p>③有機農業は完成されたものではありません。いろいろと試してみましょう。</p>				
評価の観点	知識・技能	有機農業について基本的な事柄を日本の現状や生産量の変化等と関連づけながら理解することが出来る。			
	思考・判断・表現	有機農業の諸課題を現在の視点から考察することが出来る。			
	主体的に学習に取り組む態度	有機農業に関する関心と課題意識を高め意欲的に追求することができる。			
評価方法	知識・技能	定期考査・小テスト・提出物			
	思考・判断・表現	授業中の活動・発表・レポート			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度・実験実習に取り組む姿勢、提出物			